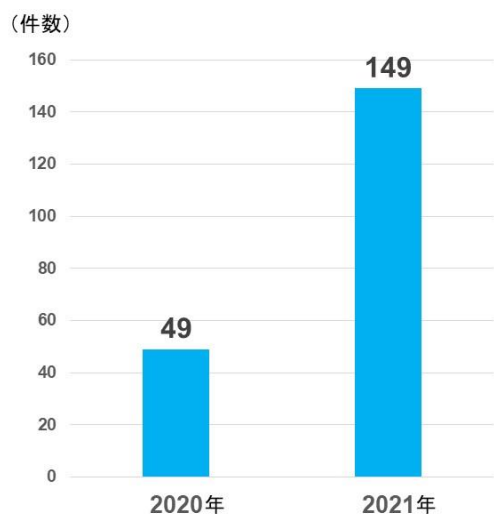
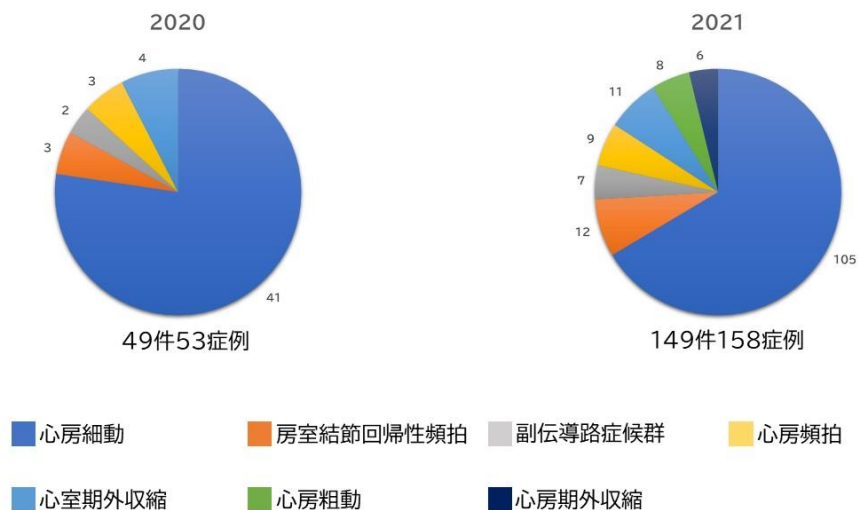


当院におけるアブレーション症例数

当院では2020年7月より開始し、6か月間にて49症例を、2021年は1年間で149症例の治療を行っております。



アブレーション対象不整脈



アブレーション担当医

祖父江 嘉洋と申します。生まれは愛知県稲沢市で、その後、岐阜県美濃加茂市で幼少期を過ごしました。田園風景が広がるのどかな環境で家族や多くの友人と過ごせたことは”人とのつながり“の大切さを学ぶことができ、今の医師として患者さんとの向き合い方を考える

基礎となっています。患者さんとその家族に寄り添い、最適な治療を提供するように心がけています。



不整脈の治療をお考えの方々に私の略歴を述べさせていただきます。
循環器医師として働きだしてから、20年以上が経ちます。

- 2000年 藤田保健衛生大学医学部卒業
- 2000-2003年 名古屋記念病院にて研修医、循環器内科医
- 2004-2011年 藤田保健衛生大学 循環器内科 助手
- 2012-2014年 藤田保健衛生大学 循環器内科 講師
- 2015-2017年 モントリオール心臓研究所(カナダ: Dr.Stanley Nattle師事)博士研究員
- 2017-2020年 岐阜ハートセンター 循環器内科医長
- 2020- 藤田医科大学 ばんだね病院 循環器内科 准教授

所属学会

日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈心電学会(評議員)、日本心臓病学会、Heart rhythm Society

<専門医>

日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本循環器学会専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医

藤田医科大学病院(豊明市)にて 2004 年より不整脈医として活動をスタートさせ、2014 年までの 10 年間に約 1,000 例のカテーテルアブレーション、約 750 例の主にペースメーカー治療となる植込み型心臓デバイス治療に関わりました。その後、2015 年からはカナダ(モントリオール)へ心房細動という不整脈の基礎研究のため留学を経験し、2017 年 4 月帰国後は岐阜ハートセンター(岐阜市)にて再度、臨床医として勤務いたしました。ハートセンターでは 3 年間に約 1350 例のカテーテルアブレーション、約 300 例の植込み型心臓デバイス治療に関わり、不整脈医としてこれまでの頻脈性不整脈へのアブレーション治療経験は **2500 例** 以上、徐脈・心不全・致死的不整脈への植込み心臓デバイスの治療経験はこれまで **1100 例** 以上の経験があり、比較的多くの症例を経験していると自負しております(2022 年 11 月時点)。

日常診療とともに、これまでに国内外の学会発表・論文執筆といった学術的活動もおこない、

2020年4月より母校である藤田医科大学ばんたね病院の不整脈部門の立ち上げのため、教授 井澤英夫先生と、これまで直接的指導を賜りました教授 渡邊英一先生よりお声をかけていただき、赴任しております。

赴任後3か月間の準備期間をおき、2020年7月より当院にて初回アブレーション治療が開始しております。初年度6か月間にて49症例を、2021年は1年間で149症例の治療を行っております。これまでのところ、手術に伴い死亡や脳梗塞といった重篤な合併症はありません。また開始1年未満で不整脈心電学会研修施設認定と、心房細動への冷凍アブレーション(クライオアブレーション)の認可を受けております。

現在、治療を受けられる患者様に応じて最も良いと思われる方法を選択することが可能です。また心がけておりますのは、懇切丁寧な説明と、患者様とその家族に寄り添った医療提供です。十分に理解をいただき、なぜこの治療がいいか、他の治療はないのか、成績はどれくらいかなど細かく説明させていただいております。そのため、多くの患者様より外来の待ち時間が長いことで叱責をいただくことも多々あります。本当に申し訳ございません。ただ侵襲的治療に関しては、100%安全な治療法ではありませんので、納得いただくためにすべての患者様へ十分な時間をかけております。ご理解をいただければ幸いです。

ばんたね病院での不整脈治療をご検討され、その内容についてのご不明な点や希望日程・日時につきましては外来にて気軽にご相談ください。心よりお待ちしております。